

第 12 回 (2016 年) 日本藻類学会 研究奨励賞

【日本藻類学会 研究奨励賞 受賞記念特集】

2016年3月19日におこなわれた日本藻類学会総会にて、第12回(2016年)日本藻類学会研究奨励賞の発表と授与が行われた。同賞は藻類学及びその関連分野において優れた研究成果をあげた若手研究者を表彰するものであり、推薦委員会からの報告(推薦者と推薦理由)に基づいて、評議員会にて同賞の選考・決定が行われ、今回、鈴木雅大氏(神戸大学内海域環境教育研究センター:紅藻マサゴシバリ目の系統分類学的研究)が受賞された。

第 12 回日本藻類学会研究奨励賞を受賞して

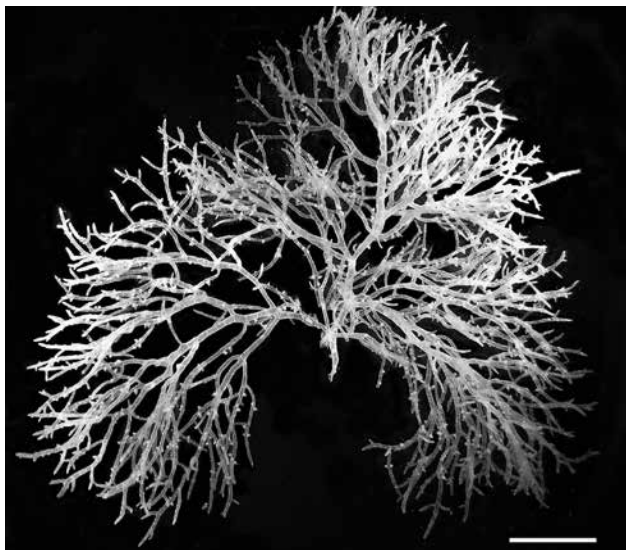
鈴木雅大

この度は第12回日本藻類学会研究奨励賞を賜り、大変光栄に思います。故吉崎誠先生(東邦大学名誉教授)との「人生を変える出会い」から16年が経ち、私の研究生活は国内外のたくさんの方々のご協力・ご指導に支えられております。これまでお世話になった方々、並びに今回ご講評頂きました先生方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

大学院博士前期(修士)課程において、「新潟県佐渡島の海藻相」をテーマとし、採集した緑藻・褐藻・紅藻全ての種について、形態的特徴や分類学的背景を調べました。これは、かつて北海道大学理学部分類学教室で見られた研究スタイルで、吉崎先生から「狭い専門性に囚われることなく、緑藻、褐藻を含めた海藻全般の知識を深めなければならない」という薫陶を受けたものでした。ひたすら海藻分類の基礎を学んだ2年間でしたが、この時の経験がその後の私と海藻との関係を決定付けたと思います。私が佐渡島の海藻を見て強く思ったのは、「この海藻の名前は本当に正しいの

だろうか」でした。博士後期課程に入ってから、真正紅藻マサゴシバリ目に対象を定め、分類学的研究を開始しました。以後現在に至るまで真正紅藻類の分類学的研究を続けています。吉崎先生譲りの果孢子体形成過程を重視した形態観察と、近年の分類学的研究のスタンダードである遺伝子を用いた分子系統解析に基づいた分類学的研究を続けていますが、海藻の分類は決して容易なものではなく、自身の経験則がピタリと当たったかと思えば、予想と真逆の結果が出て頭を抱えたりと、一喜一憂を繰り返しながら1つ1つ問題の解決を図っています。近年の海藻分類は、1つ解決したと思えば新たな問題が2つ3つ湧いてくるという賽の河原の石積みのような様相を呈しており、今のペースで生涯幾つの問題を解決できるかを数えてみれば、私の一生ではとても足りないようです。とはいえ、かつて佐渡島で抱いた「日本の海藻の種を正しく認識したいという」気持ちを絶やすことなく、少しでも多くの分類学的問題を解決し、海藻学の基礎として貢献できるよう、研究を続けていきたいと思っております。今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

(神戸大学)



岩手県下閉伊郡山田町で記載した新種紅藻ナンブワツナギソウ (*Champia lubrica* Mas. Suzuki et Yoshizaki)。スケールバー 1 cm。



田中会長より賞状の授与